

表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38189

明治四十四年九月三十日第三種郵便物認可(每月一回一日發行)

大正三年五月一日發行

十全會雜誌

金澤醫學專門學校十全會



第九十卷
第五號
(第九百號)

十全會雜誌 (第十九卷第五號) 目次

○原著及實驗

- 一肺ヲ摘出セル後他殘肺ニ呈ハル、肉眼的顯微鏡的所見ニ就テ。

於東京大學生理學教室

ドクトル 竹中繁次郎

○通信

- 臺北近況。

池上 豐

○雜報

- 講話會例會。
- 圖書月報。
- 第二回十全會圖書室抄讀會。
- 金澤醫學專門學校基督教育青年會講演會。
- 十全會東京支部春季例會記事。
- 新潟縣十全會支部總會。

○叙任及辭令

- 宮內省。
- 文部省。
- 金澤醫學專門學校。
- 石川縣。

○人事

- 轉居會員。
- 死亡會員。

○廣告

- 居所不明會員。
- 宮田教授へ贈呈記念品藤金受領報告。
- 石川教授へ贈呈記念品藤金受領報告。
- 創立二十五年記念箱寄附金第一回報告。
- 校外特別會員會費納付調書。



ルニ、吹キ擴ゲタルモノニ於テハ各肺胞孔同大ニシテ整然タル觀アリ、氣管小枝及ビ血管ノ擴大セルモノヲ認ム、他ノ氣管結紮後其儘固化セルモノハ擴大セル氣管小枝及「インフンデプラ」ノ多數ヲ認ム。

而シテ乙ノ標本ヲ顯微鏡下ニ檢スレバ血管及氣管小枝ノ擴張最モ著シク、「インフンデプラ」モ擴大セラル、者ノ如シ、其周圍ニハ殆ンド同大同形ノ肺胞整然トシテ群居スルヲ見ル、本標本ハ五Wノ標本ナルヲ以テ、其層餘リニ厚キニ過ギ詳細ヲ知ルヲ得ズ、吹キ擴ゲタル甲標本ニ於テモ同形同大ノ肺胞ヲ認メ血管及氣管小枝ハ擴大セラル、但シ其擴大ノ度ハ前標本ニ比シ著シカラズ、是レ吹キ擴ゲニヨリテ血管内ノ血液ハ一部壓退セラル、ニヨラン、肺胞壁ハ一汎ニ普通ヨリ厚シ、之ヲ擴大檢査スレバ毛細管モ亦明カニ擴大セラレタルヲ知ルニ難カラズ、細胞ヲ檢スレバ二種ヲ發見シ、普通染色カ充分ニシテ中等大ノ細胞ノ外、所々ニ膨大セル「コロマチン」少キ大核ヲ有スル大細胞ヲ發見ス。

彈力纖維ニ就テハ増減ノ著シキモノナシト雖下モ肺胞ハ一汎ニ擴大セラレ彈力纖維所々ニ斷裂セラレタル觀アリ。

本試験ハ特ニ第一日ノ胸腔所見ヲ知ルニ處置セルモノニシテ同時ニ猫犬及ビ第十試験ノ所見ヲ確ムルニ足ル。(以下次號)



通信

臺北近況

(四十四年卒業。台北醫院池上豐氏通信)

去二月中旬昨年度卒業の岡本晃君當台北醫院稻垣内科に來られ今では先輩諸氏を加ふるときは母校出身者當院のみにて五名有之候先月の下旬と本月の下旬にかけて全島の醫學大會開かれ新竹醫院中川院長の出府致されしを好機とし母校出身者相集り同窓會を二月二十六日催し申候會するもの拾五名内藥學出身者半數有之盛大にて實に愉快にて候
台灣に母校出身者の漸々増加するは實に欣喜に堪へず候
此後母校出身者にて當地に奉職希望の人有之候ときは諸先輩も御座候事とて及ばずながら御盡力致し度く存じ居り候

三月二十八日

台北醫院皮膚科

池上 豐



雜報

●講話會例會

三月十五日、土曜日、曇。午後一時四十分開會。

一、開會の辭

土肥部長
坂東三範

二、同情

演説の稽古をやるに云ふ。——同情とは、強者より弱者に對して耳み、存する言葉で無い。忠孝仁義禮智信も、同情より来る。勉勵、勞働は自己に對する同情と考へる事が出来る。同情は人格である。過度の同情は、墮落に等しい。

三、苦生

狩野藤作

人生進路の抵抗力は、苦となつて現はれて来る。吾人は苦と戦はなければならぬ。活社會に樂さ云ふ事があれば、それは苦の「パッセー」か或は「死の瞬間」であらふ。——「人生と苦」の事を「苦生」と細工つたのは面白い。

四、若し共同一致が出来たらば

三桶米造

本校に於ける種々の出來事を、日記の中から抜き出して詳しく述べた。中途にて、しきりに鈴が鳴る。まだ長い長い話ちやと負け惜んで降壇。

五、所感

鶴見元雄

境遇を支配する者には發憤、立志、活動がある。吾人は、斯くある可く充分なる素養を有して居る。試験制度の如きは全然不必要ぢや、やるな

ら品性の試験のみにて結構なり。

六、朽ちざる命

寛 正 通

意味多い人生を、運命に依頼せず、Fechner氏の所謂第三生活の準備として、充實せしめなければならない。肉体の勢力たる精神は不滅である。

——松原先生もさう云はれたと、例に依つて擔き出す。

七、要

高野喜一

大正青年の要は心である、人格である。臍の下は最も要なり、要の忘却は墮落なり。

八、日本氣質

曾我逸雄

西洋の事を知られば、日本氣質は分らぬが、其れは余の洋行後として今日は日本人の弱點を申し上げるにあつて、海軍問題を例に取つた五ヶ條は明瞭。

九、精華

大村作太郎

萬世一系の皇室は我國体の精華である。三大宗教に依つて世界無比の國民性を作つた國民の精華は忠孝である。老人は時代の退歩者なりとは記者の大に感心する所、思ふに今の老人は其の先の老人に對して我等と同じ事でありつらん哉。

十、賣藥廢止論

岡村重武

手近い話が中將湯、健腦丸、ツョール等の名を聞いた計りでも癪にさける。賣藥は醫學の立場からも、絶対に禁止しなければ不可ん。

十一、醫學上より見たる柔劍道優劣討論

此所が野次馬の得意な戰場、記者は諸先生の御顔に現はれる變化が面白いので、其の方ばかり眺めた。先づ劍道賛成論者より起つて暫くは火花を散らしたが、結局多數の差を以て劍道の勝。

十二、西國地方視察談

山崎教授

曩に旅行を終へて歸校せられた先生は、廣島衛戍病院に本校出身者でレ

ントゲン専門家として大に敏腕を振うてゐる者あることや、鹿児島風の俗、病院の状況、櫻島の噴火のことに就いて地文學上の智識やら古老の言やらを説き其土産として貰つてきた大きな榕岩を見せられた、それから熊本の特門學校、長崎醫專並傳染病院、福岡大學、別府溫泉等に於ける面白き見聞を述べられた。

十三、獨乙雜觀

林 教 授

文にも武にも進歩してゐる獨國は今でも周圍からの刺戟で絶えず向上の歩を進めつゝある、そして學術と應用と努力とは他國人の及ばぬ所がある。前提して獨國各地に於ける廣き見聞や精密な觀察を述べられた。先生の御話はそれからそれへ中々盡きない、然し日は已に薄暮に近き止むなく閉會を告げればならぬことになつた。(億羅、柳露、妄言多謝)

●圖書月報 (其八)

醫 四 村 山 良 平

▲寄贈圖書並ニ芳名如左。

故岡村一男君遺墨寄贈目錄

- 一、二村近世解剖學
- 二、奈良坂局處解剖學
- 三、金子細胞及組織論
- 四、金子胎生論
- 五、Abel, Bakteriologisches Taschenbuch.
- 六、Hammarsten, Lehrbuch der physiologischen Chemie.
- 七、Mering, Lehrbuch der inneren Medizin.
- 八、Fuchs, Lehrbuch der Augenheilkunde.

九、Thilmanns, Lehrbuch der allg. Chirurgie.

十、Joseph, Lehrbuch der Hautkrankheiten.

十一、Muret-Sanders, Encyklopädisches Wörterbuch.

寄 贈 書 目 金澤醫學專門學校基督教青年會殿

- 一、新人
 - 一、開拓者
 - 一、品性之奮闘
 - 一、予ハ何故ニ基督信徒タルヲ以テ満足スル哉
 - 一、聖書ニ就テ
 - 一、合理的の生活之原理
 - 一、The Meeting-Place of Geology and History.
 - 一、基督之教會
 - 一、大坂講壇
 - 一、基督教徒トナルノ道及ビ原書
 - 一、忠君愛國ト基督教及ビ原書
 - 一、シヨウウエスノ
 - 一、基督者トハ何ゾヤ
 - 一、日本將來ノ宗教及ビ原書
 - 一、メイセン
 - 一、小兒科學
 - 一、第四回日本醫學會日誌
 - 一、秦博士演說草稿 實驗的化學療法
 - 一、ラヂオゲン療法
 - 一、最新之治療
 - 一、杏林川柳
- 上記 拾四種 四拾八部
- 金澤醫學專門學校明全會雜誌部殿
- 醫學博士 三輪信太郎殿
- 自第一號 至第四號 號外 圖書之守
- 江戶土産
- 謹而御厚意ヲ深謝シ永ク本館ノ記念トス。

▲新着十全會購買日本醫學圖書目錄如左

理論醫學

〔甲〕形態學的基礎醫學

(一) 二村、組織學總論

(二) 袴、近世病理解剖學

〔乙〕生物學的基礎醫學

(一) 石原、生理學實習

(二) 須藤、醫化學實習

(三) 醫學

イ 藤波、レントゲン療法

ロ 藤波、ラヂウム療法

(四) 細菌學

イ 福原、傳染病及血清學各論

ロ 志賀、臨牀細菌及免疫學

(五) 山田、簡明藥理學

〔丙〕普汎的基礎醫學

(一) 診斷學

イ 竹内、「クレンペル」診斷學詞學的詳解

ロ 安藤、新撰內科鑑別診斷學

(二) 醫史學

イ 立神、醫師開業術

ロ 春風白雨樓主人、御醫者論

ハ 小川、醫者及患者ノ明鏡

ニ 南江堂、獨乙語病歷文範

ホ 岡崎、日本米食史

實際醫學

〔甲〕治療的應用醫學

〔乾〕總說治療的應用醫學

(一) 篠原、近世診療技術

(二) 渡邊、臨牀救急療法

〔坤〕分說治療的應用醫學

(一) 內科學

イ 石川、神經衰弱及其療法

ロ 原、肺結核早期診斷及治療法

ハ 南、胃腸病診斷及治療法

ニ 瀨尾、糖尿病及其療法

ホ 南、內科疾患食養療法

(二) 山村、近世外科學總論

(三) 三宅、精神病診斷及治療學

(四) 眼科學

イ 松田、日本人眼底檢查圖譜

ロ 小川、光通學

(五) 入澤、老人病學

(六) 長尾、兒科學

(七) 今淵、產科學

(八) 旭、山田、皮膚病診斷及治療學

(九) 隈川、熱帶病學

尙其外如次

一、恩田重信、新醫語大辭典

二、永井潛、生命論

三、日本醫事、年報社

明治四十五年 日本醫事雜誌索引

大正元年

三月之部閱覽總員五百八十五名

内 譯

- 特別 醫四 醫三 醫一
- 二七 一五三 二二二 一六八 一五

●第二回十全會圖書室抄讀會

期日 四月二十二日午後貳時

會場 金澤病院會議室

演題及出演辯士氏名如左

第壹席 戲性癲下困難 Dysphagia Insoria. (實際醫學)

醫四 村山 良平君

第貳席 シエーンウエー氏ノ新胃瘻術。(實際醫學)

全 人

第參席 靜坐法ノ改良。(體育)

醫四 森 薫君

第四席 心臟刺戟傳達系統及異所的刺戟ニ就テ。

醫四 織田他家男君

第五席 簡單ナル「サルバルサン」靜脈内注射法。(朝鮮醫會)

醫四 太田喜作君

第六席 秦氏實驗的化學療法ニ就テ。

醫四 涌井正雄君

第七席 賜察扶斯ニ對スル「ソクチン」療法。(千葉醫學)

醫四 青山 繁君

第八席 呼吸困難ノ療法。(治療新報)

醫四 池田謙壽君

第九席 間歇性跛行症ノ療法。(全上)

全 人

第十席 佝僂病ノ療法。(全上)

全 人

第拾壹席 梅毒ノ畸形ニ及ホス影響。(東京醫事)

醫四 三浦信明君

都合上次回繰入之部

一、發疹性猩紅熱ニ就テ。

醫三 野手雅信君

二、妊娠中毒症ト「リ」氏反應トノ關係ニ就キテ。

醫三 内藤榮治君

三、坐骨神經痛ノ療法。

醫三 田村總七君

(村山生記)

●金澤醫學專門學校基督教青年會講演會

『ダイヤモンドも黄金も渴せる時は要はありません。只一杯の水、夫れが此時の生命なのです。』天にも地にも人の心にも春の若々しさが満ち満ちて、活氣ある生の微動がたいよつて居る時、折柄の醜態のしゝまを破つて遠い理想の幻を夢みて居る青年の口から、力ある涙ある言々句々がほざけしり出でた。これは去る三月十四日私達青年會の講演會に池田謙壽君が『身心の健全』といふ題で演述なすつて居られるのである。『全様に欠陥した精神生活を根本から救ふのは人格です。この人格こそ私共の云ふ天地の大真理大精神總ての物質萬事を掌り給ふ宇宙の大きな力、神に觸れた全人格なのです。斯く完全な精神生活を成し得て初めて肉體的生命を全うし得るのです』と獨逸人の手になれる各職業と天壽の長短を示せる表を掲げて身心の健全を得るは、唯宗教の力によるべしと斷言せられた。次で『ハネ教會牧師大橋師は『充實せる生涯』といふ題で我説き下すつた。

『己に修養なる流行は去つた。これに代るは現代なる語である、現代そこには、何等の生々しい清々しい氣分をも起し得ない、忌しい不徳義な政治家、學生等を想像せしめる。吾人は此意味で現代と絶交して修養せなくては

はならない、一体親達が學校にその子弟を送つて居るのは、智力財力も自分等より優れた者にして、自分達の様な苦勞をさせたくないと思つて居る人もある。その最後は智にあらず財にあらず、かの聖書に富める一青年がエスに限りなき生命を得るに、如何にすべきやと尋れたのに、對して、汝の所有品を盡く棄て、施せと答へられた。私共の精神に確然たる根底をつくるにはこれ程の覺悟が無くてはならない。かくする所、喜あり社會的活動あり、眞の人格、人品を得るのである。

次には阿部教授を壇上に招きする事を得た。先生の題は「天國と王國」である。天國とは基督教の心靈界の國、王國は此世の政治上の國也。而して基督教及び佛教は世界教、文明教とも云ふべくしてその主義は全く世界主義也。唯兩者の差は基督教は歐洲にありてはその文明の母なれども、我國に於ては、基督教入來以前も我邦文明ありしを以て、彼れは我國に對して恰も養女位の資格あり。但し佛教は反之我邦に對しては里子の感あるものにして、これ兩者の我邦人に對する關係の異なる所以也。故に基督教は可及的養家先きの國家といふ家庭と氣の合ふ、機務むべき也。抑々世界主義と稱するは一は赤十字事業、交通、運輸など一は階級を中心とする團體即ち労働者同盟資本家同盟の如きを云ふ。國家は階級外に立つ。前述の如く基督教は世界主義なるも國家と相融合すべく努むべきものにして、人生國家の必要な宛も個体と細胞に於けるが如し。實に國家を看過せざる宗教こそ必要なれ。今基督教の美点に就て述べれば

一、基督教は佛教に比し實生活を重んず、佛教は出世間的也。これ東洋文明の哲學的なるを、西洋文明の差別的なるを異る所、夫れ「仁者山を愛し智者水を愛す」と東洋文明は前者にして西洋文明は後者也。

二、優越せる歐洲文明を背景とす。

三、基督教の牧師の完全なる人格を備へし人多く且つ新進の信者の多き

事。

要之將來の文明は何れの信者の手によりて開拓せらるゝかこれ實際生活を重んじ優越せる文明を背景として道を傳ふるもの又傳へらるゝものこれ也。

最後にダン・ロップ博士は、如何にして神を見出すべき也といふ題で流暢なる日本語で話せられた。

「願くは神よ助け給へ何處にか逢ひ奉りその御座の下に走り至らむことを」といふ叫びは獨り太古ヨブのみに止らず、かの賄賂に没頭せる前カナダ總督マクドナルド氏をして立たしめ更に有名なる雄辯家パトス氏をして、禁酒事業に就事せしめたり。神を見出す事たるや餘々にして、これ全く、視力聽力とも不完全なる初生兒の漸々發育して、全き人となるに似たり。而して、神を見出す事たるや第一は直覺也第二は思想也第三は愛也第四は祈禱也」とて詳細、例を擧げて述べられる所があつた。

勇しい主を讚美する歌と共に池田謙壽君の閉會の祈禱を以て會を閉ぢる。

當日の參集者五十餘人、その盛會であつたと共に、一同の胸には消滅し得ないエトワスが印刻された事を感謝せねばならない。(S生)

●十全會東京支部春季例會記事

時恰も櫻花爛熳の候第四回日本醫學會開催の好機に際し四月五日午後六時より九段坂上偕行社に於て十全會東京支部春季懇親會を開く當日醫學會參列の爲め上京中なる高安校長山崎教授を初め地方會員の多數出席せられ稀に見る盛會なりし席定て幹事の挨拶、高安校長山崎教授等の演舌あり横濱に開業の得田易氏は特に本會の爲めに左の自作を揮毫せられて本會に寄贈せらる宴酬にして談笑時の移るを知らず各自十分の歡を盡して同十時散會す

得田易氏寄贈の詩

有朋焉自遠方來 一夕清遊亦樂哉 九段春光櫻万朵 借行玉宴酒千杯
薄蓬色合手淵水 螢雪苦同桑梓苦 共悅母靈仙手出 藥園香草是新栽

十全會東京支部懇親會席上述感

石 逕 居 士

當日出席者左の如し (順序不調)

- 高安 校長 山崎 教授 藏光長次郎 生沼 曹六 小原 芳雄
- 笠岡 眞 吉田 東秀 竹中繁次郎 江波 知輝 日野 信次
- 森田 齊次 得田 易 吉田 幡誠 米村吉太郎 岡田 剛吉
- 大木 則雄 古丸藤三郎 北 豊吉 田上 清貞 北村清太郎
- 谷澤 一郎 桑原慶太郎×窪美 一久 山中房次郎 松村 魁
- 増田 貞吉 丸山 直友 小島 隆義 坂野長三郎 田中一次郎
- 飯森益太郎 小林 三郎 渡邊 四郎 沖野彌一郎 松本 繁正
- 大澤 五月 百谷 義一 吉川 六郎 石譯 太作 寺本 義一
- 堀田 懐之 朝倉 重敏 野島茄三郎×安田 則人 赤倉喜久雄
- 清水 秀夫 (姓名の上に×印あるは次回幹事に指名せられたる者す)

●新潟縣十全會支部總會

新潟縣下に於ける金澤醫學出身者は先輩山本晋氏の下に十全會支部を組織し昨年七月其發會式を長岡市に開き本校よりは高安校長及下平教授の出席あり高安校長は「トラホーム」に就きて下平教授は腹膜炎に就きて講演せられたるが本年は去四月六日越後高田市借行社に於て第二回總會を開き本校よりは山崎松原兩教授の出席あり山崎教授は肺結核の豫後に就きて松原教授は神經衰弱症の診斷に就きて講演し終りて同地紅葉館に於て親睦會を開き翌日解散せり會者十七名なり。

叙任及辭令

●宮内省

三月十日

- 叙從六位 正七位 加藤 靜 雄
- 叙從六位 正七位醫學博士 松原 三 郎
- 叙正七位 從七位 脇 坂 慶 造
- 叙正七位 福 士 政 一
- 叙從七位 林 篤

●文部省

三月三十一日

- 三級俸下賜 金澤醫學專門學校教授 村 上 庄 太
- 依願免本官 金澤醫學專門學校教授 村 上 庄 太

●金澤醫學專門學校

二月二十八日

- 依願囑託ヲ解ク 金澤醫學專門學校講師 岡 本 京 大 郎

小兒學副手ヲ囑託ス

金澤醫學專門學校醫學士 奥山 義盛

月手當金貳圓給與

三月十一日

依願雇ヲ解ク

雇 中野 鱒太郎

三月二十四日

依願囑託ヲ解ク

衛生學及細菌學授業補助囑託 田中吉左衛門

四月二十三日

醫化學副手ヲ囑託ス

金澤醫學專門學校醫學士 神田 定

月手當金拾五圓給與

●石川縣

大正三年三月三十一日

金澤病院醫員ヲ命ズ

大 瀧 徑 (大二)

十二級俸給與 (婦人科勤務ヲ命ズ)

金澤病院醫員ヲ命ズ

石川 寛二 (大二)

十二級俸給與 (外科二部勤務ヲ命ズ)

大正三年三月廿七日

金澤病院醫員 住田 立 (四)

金澤病院醫員 富田 豊 咲 (四)

十一級俸給與

金澤病院醫員ヲ命ズ

布施 宗一 (大二)

十二級俸給與 (皮膚科勤務ヲ命ズ)

金澤病院醫員ヲ命ズ

竹内 善松 (大元)

十二級俸給與 (小兒科勤務ヲ命ズ)

金澤病院調劑員ヲ命ズ

中林 清右衛門

月俸拾八圓給與

大正三年四月十八日

金澤病院醫員ヲ命ズ

橋 虎次郎 (大二)

十二級俸給與 (眼科勤務ヲ命ズ)

金澤病院醫員 近藤 時男 (四)

金澤病院醫員 源明 藤吉 (四)

十一級俸給與

マツサーシ師ヲ囑託ス

山本 傳三郎

月俸金拾五圓給與

大正三年四月廿二日

十級俸給與

金澤病院醫員 西野 宗之 (四)

依願職務ヲ免ズ

十一級俸給與

金澤病院醫員 小池 才一 (大元)

金澤病院醫員ヲ命ズ

(舊坂井) 淺井 貞準 (大二)

十二級俸給與 (内科一部勤務ヲ命ズ)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

人事

轉居會員

富山縣下新川郡魚津町大字角川町四六
 石川縣河北郡高松村四二
 和歌山縣東牟婁郡七川村字西川
 香川縣善通寺步兵第四十三聯隊
 京都市御幸町通錦小路南入
 千葉縣國府臺野砲兵第十七聯隊
 朝鮮步兵第三十五聯隊附
 新潟縣佐渡郡畑野村字畑野七一七
 朝鮮伊川步兵第三十五聯隊附
 朝鮮咸鏡南道咸興、咸興守備隊醫務室
 新潟縣刈羽郡柏崎町停車場通リ
 朝鮮新阿山守備隊附
 滋賀縣犬上郡豐鄉村字四十九院
 福井縣坂井郡吉崎村
 朝鮮龍山步兵第三十五聯隊第三大隊本部
 東京市神田區駿河台東紅梅町二、回春堂病院
 台灣台北醫院第一内科
 岐阜縣加茂郡伊深村

熊西中藏(三)
 石橋三也(三)
 南茂吉(三)
 原季(全)
 大原米次郎(四)
 平野郷治郎(四)
 大橋忠俊(全)
 若林篤之(全)
 角田眞一(望)
 高崎英彦(全)
 白田重良(全)
 村上盛宰(全)
 重森重一(四)
 田村實(全)
 鳥居環(大元)
 五十嵐齊(大元)
 岡本晃(大二)
 柳瀬恒作

死亡會員

▲戸澤和一氏(大正元) 氏は久しく病中の處去る三月二十二日午前九時逝去せらる、謹て哀悼の意を表す。
 ▲伊藤春馬氏(四一) は久しく病寤に襲はれ治療中の處四月十日午前一時半靜岡市にて逝去せられし由謹て哀悼の意を表す。

廣告

左記の方は居所不明に付御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下され度御願申上候但し姓名の上に◎印あるは最近に不明なりりたる會員諸君なり

舊住所
 東京芝養生園
 大阪市東區京橋三丁目
 長野縣上水内郡長野町
 富山縣魚津町
 石川縣羽咋郡高濱河崎醫院内
 石川縣能美郡小松町字京町
 朝鮮京城旭町二丁目
 軍醫
 岐阜縣大野郡高山町一四四一

◎園崎純次郎(三)
 ◎森岡惣太郎(三)
 ◎須田嘉三郎(三)
 ◎前田豐作(全)
 ◎小林五佐(全)
 ◎松村四郎(三)
 ◎富久尾溪(全)
 ◎宮崎稻作(全)
 ◎中村德藏(三)

北海道釧路釧路港得濟病院

◎須藤卯太郎

●宮田教授へ贈呈記念品釀金受領報告

第二回 (二月二十八日迄)
(受領ノ分)

- 豫備工兵第九大隊
- 兵庫縣神戸病院
- 門司市西川端町二丁目
- 獨乙國ミユンヘン市
- 高知縣高岡郡須崎古市町
- 近衛野砲兵聯隊
- 新潟縣中頸城郡新井町
- 兵庫縣柏原病院
- 久留米衛戍病院附
- 北海道小樽慈惠病院
- 廣島縣高田郡吉田町
- 福井縣立病院
- 札幌北一條四丁目
- 東京芝神谷町
- 東京市神田區駿河臺井上眼科病院
- 篠山歩兵第七十聯隊附軍醫
- 伊豆國伊東町玖須美
- 大阪市北區安治川南二丁目政山病院
- 新潟縣長岡市長岡病院內
- 新潟縣長岡市長岡病院內
- 朝鮮駐劄軍司令部附軍醫
- 三重縣山田市日本赤十字社三重支部山田病院內科
- 大阪市北區霜笠町回生病院
- 金澤市弓ノ町九
- 廣島縣加茂郡中黑瀬村丸山
- 富山縣石動町石動病院

西村順八(全)	一本五拾錢也	小木秀特殿	一金五拾錢也	春田久太郎殿
本城熊三郎(全)	一金壹圓也	江村研正殿	一金壹圓也	柴田順三殿
戶井源吾(全)	一金壹圓也	馬場庄江殿	一金壹圓也	山田奉吉殿
松久祐馬(全)	一金壹圓也	中原德彌殿	一金壹圓也	正木芳隆殿
藤井茂(全)	一金壹圓也	箱保二殿	一金貳圓也	中島誠殿
木下節三(全)	一金壹圓也	中川久成殿	一金壹圓也	內田憲男殿
鈴木政治郎(全)	一金壹圓也	久保田宮太郎殿	一金壹圓也	關根平殿
吉武安男(全)	一金壹圓也	湯附和殿	一金貳圓也	周頌聲殿
內海友七(全)	一金壹圓也	堀井吉平殿	一金壹圓也	李廷權殿
江藤幹(全)	一金壹圓五拾錢也	根布貞吉殿	一金壹圓也	稻坂清八殿
瀧澤武藏(全)	一金壹圓也	松生哲真殿	一金五拾錢也	奥田秀的殿
五井康平(全)	一金貳圓也	賀川見龍殿	一金壹圓也	鈴木彌殿
楠正之(全)	一金貳圓也	片山常三郎殿	一金五拾錢也	堀田愼之殿
松本文二(全)	一金五拾錢也	長田八三郎殿	一金壹圓也	青木國三郎殿
河崎正雄(全)	一金貳圓也	齊藤房治殿	一金五拾錢也	青木市次郎殿
◎吉田繁治郎(全)	一金壹圓也	長村吉太殿	一金五拾錢也	南部健一殿
◎池谷運平(全)	一金壹圓也	堀田圭三殿	一金五拾錢也	鈴木伊作殿
◎池川周次郎(全)	一金壹圓也			
◎藤井最正(全)	一金七拾錢也			
◎穗刈光平(全)	一金五拾錢也			
◎鈴木琢磨(全)	一金五拾錢也			
◎齊藤祐男(全)	一金五拾錢也			
◎三上儉次(全)	一金五拾錢也			
◎荻野鶴治(全)	一金五拾錢也			
◎室田茂人(全)	一金五拾錢也			
◎谷口明(全)	一金貳圓也			

一金五拾錢也 瀧澤武藏殿 一金壹圓也 吉田貢納殿
 一金五拾錢也 進士愛太郎殿 一金拾圓也 深美貞之助殿
 一金壹圓也 大澤五月殿 一金五拾錢也 眞澤定一殿
 一金五拾錢也 渡邊宗一郎殿 一金壹圓也 石坂貞次郎殿
 一金壹圓也 牛塚榮太郎殿 一金壹圓也 寺本於兔男殿
 一金壹圓也 五十嵐久十郎殿 一金五拾錢也 平手秀敏殿
 一金壹圓也 松田研吉殿 一金五拾錢也 清水憲策殿
 一金壹圓也 中堀彌一殿 一金參圓五拾錢也 深谷藤一殿
 一金壹圓也 佐藤進殿 一金壹圓也 諸橋林太郎殿
 一金五拾錢也 森田耕一殿 一金壹圓也 土屋保三殿
 一金壹圓也 南茂吉殿 一金五拾錢也 筱岡夏作殿
 一金五拾錢也 宇佐美保久殿

計金五拾貳圓貳拾錢也

累計金百參圓九拾錢也

第一回報告ニ樋口平太郎トナリシハ平次ノ誤

●石川教授へ贈呈記念品贈金受領報告

第四回 (四月廿四日迄) (受領ノ分)

一金壹圓也 神岡藤一郎殿 一金壹圓也 七五三龜吉殿
 一金壹圓也 原伊之殿 一金參圓也 神戶在住同窓生
 七日會殿

一金貳圓也 遠山繁殿 一金壹圓也 淺田耕造殿
 一金壹圓壹錢也 加瀬順之助殿 一金壹圓也 美原文二殿
 一金壹圓也 遠山正輝殿 一金壹圓也 小鷹利三郎殿
 一金壹圓也 筱岡夏作殿 一金壹圓壹錢也 奥山正雄殿
 一金壹圓也 南部健一殿 一金壹圓也 佐藤邦次郎殿
 一金壹圓也 宮城篤珍殿 一金壹圓壹錢也 菊地文岱殿
 一金壹圓也 相馬甲五郎殿 一金壹圓也 鎌田勤之助殿
 一金壹圓也 中原德彌殿 一金壹圓也 川上操一殿
 一金壹圓也 矢原準一殿 一金壹圓也 長田敏殿
 一金參圓也 吉池青吾殿 一金壹圓也 佐藤進殿
 一金壹圓也 佐崎伊久殿 一金壹圓也 馬詰定衛殿
 一金壹圓也 中西文雄殿 一金貳圓也 影山清美殿
 一金參圓也 加藤寬殿 一金參圓也 岡島敬治殿

計金四拾圓參錢也

累計金參百參拾參圓九拾四錢也

●創立二十五年記念館寄附金第一回報告

(大正三年四月二十五日迄申込ノ分)

氏名	金額	氏名	金額
金 額			
氏 名	金 額	氏 名	金 額
金七圓也	瀨尾順四郎殿	一金五圓也	山田孝太郎殿
一金五圓也	高橋善三郎殿	一金五圓也	野坂賢藏殿

一金五圓也	今村 鐵夫殿	一金五圓也	湯本四郎右衛門殿	一金五圓也	辻岡 律殿	一金五圓也	松浦啓三殿
一金五圓也	藤本純吉殿	一金五圓也	林 常雄殿	一金五圓也	○納富嘉太郎殿	一金五圓也	並河茂樹殿
一金五圓也	湯淺 剛殿	一金五圓也	武田 真海殿	一金五圓也	柳瀨恒作殿	一金五圓也	仙波宏造殿
一金五圓也	小島顯治殿	一金五圓也	原 伊之殿	一金五圓也	福田 靜殿	一金五圓也	井田善敬殿
一金五圓也	佐藤改造殿	一金五圓也	○山村鏑二殿	一金五圓也	駿河尙庸殿	一金五圓也	速水 昇殿
一金五圓也	笹岡芳名殿	一金五圓也	中村欣一郎殿	一金五圓也	○山本直枝殿	一金七圓也	中條俊夫殿
一金五圓也	○石譚太作殿	一金五圓也	鈴木俊定殿	一金五圓也	福山可藏殿	一金五圓也	黑田 潔殿
一金五圓也	上野辰太郎殿	一金五圓也	○佐竹清吉殿	一金五圓也	竹多乙三郎殿	一金五圓也	深美貞之助殿
一金五圓也	藤岡孫喜殿	一金六圓也	○北川友次郎殿	一金五圓也	山本幹雄殿	一金五圓也	○林 義輔殿
一金五圓也	田口以文殿	一金五圓也	神田與敬殿	一金五圓也	池田恒太郎殿	一金五圓也	○太田恒道夫殿
一金五圓也	神野勇三郎殿	一金五圓也	○澁谷十郎殿	一金五圓也	井上只次殿	一金五圓也	○片山良作殿
一金五圓也	源明藤吉殿	一金五圓也	池田菱吉殿	一金五圓也	吉川六郎殿	一金五圓也	○秋山八百藏殿
一金五圓也	小森定司殿	一金五圓也	加勢 基殿	一金五圓也	三野賢吉殿	一金五圓也	瀧上 清殿
一金五圓也	丸山直友殿	一金五圓也	○安藤佐吉殿	一金五圓也	田邊鼎介殿	一金五圓也	近藤琢磨殿
一金五圓也	下村義二郎殿	一金五圓也	上島耕治殿	一金五圓也	永井人雄殿	一金五圓也	吉田 實殿
○桑折 直殿	○柏木幸助殿	○牧 良一殿	○鈴木伊作殿	○鈴木伊作殿	○仙波昌秋殿	○種子田秀吉殿	○坂井迪太郎殿
○得田 易殿	○下坂雄太郎殿	○伏田金三殿	○野鳥利一殿	○野鳥利一殿	○菊地文岱殿	○柏倉藤次郎殿	○桑島貫一殿
○田代保二殿	○久保田宮太郎殿	○中原重吉殿	○山口有登殿	○河口二郎殿	○新谷信吉殿	○加藤錠吉殿	○大口富治殿
○山田有登殿	○山口有登殿	○河口二郎殿	○新谷信吉殿	○新谷信吉殿	○岡田新雄殿	○中野才幸殿	

一金五圓也 ○宮內盛直殿 一金參圓也
 一金五圓也 松王敷男殿 一金參圓也
 一金參圓也 廣瀬竹次郎殿 一金參圓也
 一金參圓也 水上俊三殿 一金參圓也
 一金參圓也 千田常外殿 一金參圓也
 一金拾圓也 高柳元六郎殿 一金五圓也
 一金五圓也 ○笹田順二殿 一金五圓也
 一金五圓也 登谷保脩殿 一金五圓也
 一金參圓也 阿波加憲吉殿 一金參圓也
 一金五圓也 片岡喜一郎殿 一金參圓也
 一金參圓也 ○和田政範殿 一金參圓也
 一金參圓也 後藤利造殿 一金五圓也
 一金參圓也 ○青木市次郎殿 一金五圓也
 一金五圓也 小原半三殿 一金參圓也
 一金參圓也 大武國治殿 一金五圓也
 一金五圓也 近藤時男殿 一金參圓也
 一金五圓也 ○淺野駒太郎殿 一金五圓也
 一金八圓也 杉原幹男殿 一金五圓也
 一金五圓也 加藤慶三殿 一金參圓也
 一金參圓也 赤倉喜久雄殿 一金參圓也
 一金參圓也 熊西中藏殿 一金五圓也
 一金五圓也 ○野嶽利七殿 一金五圓也

西村順八殿 一金五圓也
 田中精一殿 一金壹圓也
 茂木留吉殿
 小林唯四郎殿
 鈴木正孝殿
 ○春田久太郎殿
 井村省吾殿
 ○渡邊十治殿
 矢吹清殿
 馬場穉殿
 南茂吉殿
 望月慶作殿
 眞柄佐一郎殿
 笠松彦次郎殿
 ○笠間眞殿
 玉森法靈殿
 藤井溫真殿
 梶川藏重殿
 神岡藤一郎殿
 太田卯三郎殿
 松本繁正殿
 ○久津木勝作殿

但○印ノモノハ既ニ現金領收濟ノモノ
 以上
 ○千秋雄雌郎殿 一金壹圓也
 ○小原眞殿
 ○佐藤政太郎殿 一金五圓也
 ○天野幸二郎殿
 金額 期 限 氏 名
 自大正三年三月廿六日校外特別會員會費納付調書
 至大正三年四月廿八日
 自大正二年度 三ヶ年分 原田四郎殿
 至大正四年度 北川友次郎殿
 自大正二年度 五ヶ年分 納富嘉太郎殿
 至大正六年度 野島利一殿
 自大正二年度 三ヶ年分 種子田秀吉殿
 至大正四年度 楠田利一殿
 全 森田耕一殿
 全 北浦德太郎殿
 全 端谷豐吉殿
 全 和田政範殿
 全 濱鐵造殿
 自大正三年度 二ヶ年分 望月慶作殿
 至大正四年度 二ヶ年分 以上